

○吉本議長 通告4番目、6番、田畑昭二議員、総括方式で質問願います。

田畑昭二議員。

○田畑議員 6番、田畑昭二です。議長の許可を得ましたので、さきの通告に従いまして、総括方式で3点質問いたします。

まず1点目は、音響設備の整った音楽ホールの設置についてであります。

明年度より新市民プールのオープンに伴い、旧市民プールの2カ所が廃止となります。その跡地利用については、現在のところ、白紙と聞いておりますが、かねてより音楽家の方や市民の方々から音響設備の整った音楽ホールを本市にも設置してほしいという要望が寄せられておりましたが、この跡地に建設してはどうか提案をいたします。市としてのお考えをお聞かせください。

2点目につきまして、動物愛護管理法改正後についてお尋ねいたします。

全国的に、犬・猫殺処分ゼロの機運が高まっておりますが、私も、以前、平成26年6月議会で質問いたしました。その後の市及び県の取り組みは進んでいるのでしょうか。和歌山県下の収容数、殺処分数の経緯は、過去3年間でどのような推移を示しているのか。また、以前の質問の際、殺処分の80%が飼い犬の迷子や飼育放棄であることから、迷子にならないよう連絡ホルダーを配布してはとの提案に対して、市のほうで対応していただき、感謝しております。

また、命の大切さ等を小学生に教える和歌山県の事業として、わうくらすを学校へ紹介すると答弁していただきましたが、どのような実績があるのでしょうか。また、今後どのように推進がなされるのでしょうか、お答え願います。

そして、広島県の神石高原町というところでは、平成26年度からふるさと納税指定先をNPOや自治振興会に指定ができるように条例改正し、犬の殺処分ゼロのために、ふるさと納税を活用する取り組みがなされ、平成26年11月から開始されております。

寄附金の95%はNPOへ、5%が町に、お礼の品はNPOが送るシステムになっており、数億円の納税がなされているようであります。こういった自治体の活動もぜひとも研究していただき、本市も何らかのアクションが起こせないか、提案をいたします。ご見解をお聞かせください。

最後に、昨年、岩出まちづくり協議会として、那賀建築士会の女性部会の協力を得まして、避難所運営ゲーム、HUGゲームの研修会を実施していただきました。HUGゲームとは、静岡県職員の職員によって考案されたもので、一般住民向けシミュレーション型訓練で、避難所で起きる状況の理解と適切な対応を学ぶものであり、

市の避難所運営を任された状況のもとに、次々にやってくる避難者、例えば、乳幼児、妊産婦、高齢者、障害者、外国人、疾病者、遺児、ペット等々、その状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切に対応するすべを学ぶゲーム様式の教材であります。

そこでお尋ねいたします。このHUGゲームをできるだけ多くの方々にも知っていただくのに、広く市民の各種団体などの皆さんに紹介、普及してはどうか、お尋ねいたします。

次に、このゲームの終了時に皆さんが言われていたのは、大災害時には市の職員の方もいなくなり、リーダーとなる人もいない場合が想定され、現場では避難所の現場では收拾がつかないのではないかと。そのときには条例等で明文化されたマニュアルとして、リーダーとなるべき人を決めておく必要があるのではないかとという疑問が上がりました。この点について、市としてのお考えをお尋ねいたします。

以上3点について、よろしくお願ひいたします。

○吉本議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○塩崎教育長 田畑議員、一般質問1番の音響設備の整った音楽ホールの設置をについてお答えします。

現在のプールにつきましては、新プール開場後に閉場し、プール施設を取り壊す計画をしておりますが、堀口プールに併設する交通公園には遊具を設置し、公園としての利用や小さい子供さんの自転車の練習などにも利用いただいております。東公園は都市公園に指定されており、建築物の建設には制限もございます。跡地利用については、そういったことを勘案し、プール閉場後に検討してまいります。

また、音楽ホールについては、市民総合体育館は文化的機能も有する施設として建設したものであり、平成13年10月には、小ホールをコンサートなどの文化芸術活動に利用していただくため、ステージの拡張、音響機材の入れかえ、側壁の吸音・拡散板の新設、照明設備の増設など、全面改装し、音楽コンサート、芸能発表会などに使用されておりますので、ご活用いただきたいと考えております。ほかにも教育委員会では、旧和歌山県議会議事堂でコンサートを開催したこともございます。本市の観光拠点であり、観光に寄与するものであれば、ご利用も可能ですので、ご活用もご検討ください。

次に、質問2番の2、わうくらすについてお答えします。

わうくらすとは、県内に通学する小学生を対象に、動物を通して、命の大切さや

他者とのかかわりを学ぶことによって、子供たちの豊かな心を育むことを目的に、和歌山県動物愛護センターが平成14年度から実施している事業です。平成21年度に、動物愛護センターの方から、本事業についての説明と実施依頼があり、岩出小学校と中央小学校で実施しております。

また、田畑議員から、平成26年6月議会の一般質問で、本事業についてご質問いただき、その直後の校長会で再度紹介をいたしました。このことを受け、根来小学校3・4年生では出張型の授業を、2年生では来館型の授業を実施しておりますが、その後は市内の学校での実施はありません。

実施していない理由を各学校で聞いたところ、本授業は、動物と直接触れ合うことができるよい授業であるが、どの学校にも動物アレルギーの児童がいて、そのことが障壁となっているとのことでした。

しかし、各学校では、動物愛護に関する取り組みをしていないわけではなく、わうくらすにかわる取り組みとして、県環境生活総務課の環境学習アドバイザー派遣事業を活用し、市内全小学校で県動物愛護推進員を講師に招き、動物の誕生を中心に、動物愛護の学習を実施しています。加えて、一部の学校では、さくらペットクリニックの院長を講師に招き、命の大切について学習しています。

今後も学校教育において、あらゆる機会を通じて命の大切さを指導するとともに、特に道徳の時間では、命の大切さや動植物を大切にすることについて学習を深めてまいります。

以上です。

○吉本議長 生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 田畑議員ご質問の2番目の1点目と3点目について、お答えをいたします。

県内の犬・猫の過去3年間の引き取り件数と殺処分数の推移につきましては、県に確認しましたところ、県内全体での引き取り件数は、平成26年度、3,233頭、平成27年度、3,099頭、平成28年度、2,738頭、殺処分数は、平成26年度、2,960頭、平成27年度、2,750頭、平成28年度、2,402頭となっており、いずれも年々減少傾向にあります。

特に、犬の殺処分につきましては、譲渡件数の増加や狂犬病予防法に基づく野犬の保護が徹底されたこと、また、小型犬種の屋内飼養が多くなったことにより、保護収容数が減少しております。

次に、3点目のふるさと納税を活用している自治体を参考にしてはどうかについ

て、本市では、動物の保護や収容など、殺処分を未然に防止する取り組みとして、広報いわでや市ウェブサイトによる啓発、また、狂犬病集合予防注射などの会場において、飼い主に対し、迷い犬ホルダーの配布や犬の正しい飼い方などのチラシ配布などの啓発を行い、殺処分ゼロにつながる取り組みを行っているところです。

議員提案のふるさと納税の活用につきましては、犬・猫の譲渡、適正飼育の啓発、不妊・去勢手術、餌代などに活用している自治体もありますが、本市といたしましては、現時点では考えてございません。

なお、他市町村の取り組み状況などにつきましては、今後も情報収集に努めてまいります。

以上です。

○吉本議長 総務部長。

○藤平総務部長 ご質問の避難所運営ゲームについての1点目、HUGゲームを広く市民団体に普及してはどうかについて、お答えいたします。

避難所運営ゲーム（HUG）につきましては、今までも自主防災組織や自治会等の団体から要望があった場合、貸し出しや実施に当たってのサポートを行ってきたところです。避難所運営ゲームは、避難所で起こり得るさまざまな出来事にどう対応していくか疑似体験でき、避難所運営の知識普及に当たり、非常に有効なものと考えておりますので、これからも広く普及に努めてまいります。

次に2点目、大災害時の避難所マニュアルは、また、そのときの中心者は誰かを条例等で決めておく必要はないかについて、お答えいたします。

避難所運営マニュアルにつきましては、要配慮者への対応や避難状況に応じたプライバシーへの確保、男女のニーズの違いへの配慮など、避難所環境の向上に資するため、平成25年3月に策定し、現在、市のウェブサイトにおいても公開しているところです。

避難所運営の中心者につきましては、市の地域防災計画及び避難所運営マニュアルにおいて、災害発生時の初動期は、市の職員や施設管理者等が応急的に避難所を運営いたします。発災から3日以降の展開期は自主防災組織や自治会等を中心とした避難所自治組織を立ち上げていただき、避難者、ボランティア、職員等が連携し、避難所運営を行うこととしております。

また、市の地域防災計画において、避難所には男女双方の避難所管理者を置くことと定めておりますので、現在のところ、条例化する予定はございません。

避難所の運営は、市職員やボランティアだけでなく、避難者自身も携わっていく

こととなるため、今後も地域防災訓練や避難所運営ゲームの活用などを通じ、自主防災組織や自治会だけでなく、広く市民の皆様への普及啓発に努めてまいります。

以上でございます。

○吉本議長 再質問を許します。

田畑昭二議員。

○田畑議員 まず、2点目の動物愛護の件なのですが、ご答弁いただきまして、教育委員会のほうでもいろいろな手を打っていただいて、いろんな命の大切さ等々の教育を推進していただいていると、本当に感謝申し上げます。

今現在、いろんな凶悪な犯罪もたくさんございまして、その底流には生命の軽視というものがどうしてもあるんじゃないかなど。そして、動物をいじめたり、また、動物の命をもてあそぶような、そういう事件も多くなってきております。ということで、今、教育委員会が推進していただいているそのような命の大切さを小さいときから教育していくというのはものすごく大切なことだと、私も実感しております。今後とも推進のほう、よろしく願いしたいと思います。

そして、殺処分の推移でございますが、年々、徐々に少なくなってきております。和歌山県も力を入れていただいていると思いますし、また、そういう機運も高くなってきております。また、私どもでできることがあれば、しっかりまた対応していきたい、頑張っていきたいと考えております。

そういうことで、ふるさと納税については、今現在のところ、当然考えておらないということなのですが、結局、ふるさと納税ということは、今回、私、いろいろ調べましたら、日本全国からそういったものにお金を使ってもらいたいという、そういう方がものすごく多いということがわかりました。

神石高原町というところは、東京に本部のあるNPOを移転してもらって、この高原町へ来てもらって、それでNPOの援助をしていると。そのNPOは、年間予算20億で運営しているということを聞いております。そして、従業員も二十代の従業員が全国から20名以上の方がここに来て、そして頑張っていると、そういうことで、いろいろな面でメリットが大きいということで、非常に喜ばれているということ、広島県も、当然、殺処分ゼロで対応できるようになったということでございます。

そういうことで、いろんな角度から、ふるさと納税というのは、これに限らず、全国からやっぱり脚光を浴びて、そして、その使い道を明確にしたときには、対応していきたいという方もたくさんいらっしゃるということで、そういう面の研究も

市として、今、商品の返礼も始まりまして、徐々に徐々に、今、ふるさと納税も上がってきているようにお伺いしておりますけども、そういう使い方もあるということも研究課題の1つに入れていただけたらなということで、提案をした次第でございます。

そして、3点目でございますが、避難所の件で、HUGのゲームが終わった後、皆さんが言われたのは、当然、市の職員の方、また危機管理の職員の方が来ていただいて、そして運営をしていくのに一番理想的で、一般住民の方も職員の方が言われているんだから従いましょうということで、話は当然まとまるわけですが、仮にですが、大災害が起こった場合に、市内全域が被害を受けて、職員の方も自分の家も大変になり、当然、約50カ所ほどある公的な避難所に行けないというケースがもし仮にあった場合に、そういったときに、第1次の住民の方々が集まってきたときに、そのときに誰が中心者となって運営していくのかというところが明確でないと、なかなか収拾つかないんじゃないかなという、そういう懸念がありまして、最初の答弁では、当然、職員の方が来ていただいて、そして、2日か3日後には、当然、日本全国からボランティアの方が入っていただいて、そして運営を当然プロとしてしていただくような方がどんどん入っていただいて、交通整理は当然できていくわけですけども、初日及び次の日ぐらいまでは、なかなか自分らで全て対応、どういうふうにしていくかというのは不安だという、そういう意見がたくさん出ましたので、それでマニュアルとして、どういうふうになっているのかなということを1回お聞きしたいなと思った次第でございます。

それと、関連で、通告はしてなかったんですが、そういう大震災のときに、例えば、避難所の鍵が管理者が持つておるとか、誰かが、市の職員が持つているというケースの場合、なかなか現場に行けない場合想定しましたら、入れないということも考えられるわけですね。

そして、ある自治体では、そういったことも想定して、安全ボックスというのをつくって、そこへ鍵を入れておきまして、ある一定以上の震度がありますと、自動的にその鍵のボックスがあきまして、誰が行ってもすぐに鍵が使えて、中に入れるという、そういうシステムを使っているところ、結構多くなってきていると聞いております。当市もそういうようなものを置いたらどうかなと提案をしたいんですが、そのお考えはどうでしょうか。

以上です。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長 田畑議員の再質問について、動物愛護にかかわって、命の大切さを引き続き学校でも教えていくようにというご質問をいただきました。現在、学校教育の中で、特に道徳の内容項目として、生命尊重とか、動物を大切にする、自然を大切にする、あるいは自然に対する畏敬の念を育てる、そういった内容項目が必修項目として盛り込まれており、道徳の授業を行っているところでございます。

さらに、動物をいじめるといったこと、それから、子供同士のいじめ、こういう部分も関連があり、いじめ対応については、学校も全力を挙げて、今取り組んでいるところでございます。

さらに、保健推進課の保健師が学校へ出向きまして、性に関する指導とあわせて、命の誕生の瞬間から、いかに子供たちが大事に育てられてきているか、命の大切さと絡めるような指導もしていただいているところです。

今後も引き続き、学校教育全体、あらゆる教育活動を通じて、命の大切さの教育を進めてまいりたいと考えてございます。

○吉本議長 生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 田畑議員の再質問にお答えいたします。

まず、動物愛護に関しまして、市行政の取り組みについてであります。先ほど一定の評価をしていただいたのかなとは感じております。

今後も殺処分を減らすには、譲渡の増加あるいは野良犬・野良猫をふやさないことが重要であるということから、引き続き和歌山県動物愛護管理推進計画、これに沿いまして、県や関係機関、団体と協力し、殺処分ゼロに向け取り組んでまいりたいと考えております。

それから、ふるさと納税の関係でございます。現在、岩出市におきましては、ふるさと納税制度によるふるさと岩出市応援寄附金、これをしていただくに当たりましては、住んでよかったと思えるまちづくり、こういうのを初め5つのメニューから選んでいただくということになっております。

議員ご紹介いただきました広島県の神石高原町、こちらのほうでは、同じくメニューが9つございまして、このうち1つに寄附を希望する団体の指定という項目がありまして、その団体が7つ指定されておる。その中の1つに、動物愛護活動を行っている団体があるというふうにお聞きをしております。

こちらの町では、そういう連携をすることで、町内のみならず、広島県内の殺処分ゼロを目指しておるといふふう聞いております。

我々としまして、先ほど申しましたように、他市町村のこういう取り組み、これにつきましては、今後も情報収集に努めてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○吉本議長 総務部長。

○藤平総務部長 田畑議員の再質問の中で、避難所の鍵があかない場合、どうするかということで、その対応についてですけれども、大規模な災害が発生した場合には、職員あるいは施設の管理者が被災を受けてしまってまして、すぐに避難所に向かえないと、こういうことも想定されます。我々もそのことはずっと考えておりました。こういうようなことで、対応としましては、平成30年度の予算におきまして、感震キーボックスの設置ということで予算を計上してございます。このキーボックスの内容につきましては、先ほど田畑議員が話されたとおり、自動的に鍵があくというようなことになってございますので、担当しておる職員が被災した場合であっても、別の職員が避難所の開設をできるということになってございます。30年度以降、年次的に計画を立てて、市内の各避難施設に設置を予定してまいります。

それから、避難所運営の中心者として、市職員が大規模災害のときにはすぐには来れないんじゃないかということでありましたけれども、先ほども答弁させていただきましたが、市の地域防災計画あるいは避難所運営マニュアルにおいて、ともかく市の職員が避難所のほうに向かいます。もし、あらかじめ決めておる者が被災した場合であっても、別の者が必ず避難所のほうに向かいに行きますので、ご安心いただきたいと思います。

以上でございます。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 以上で、田畑昭二議員の一般質問を終わります。